

会 議 記 録

会 議 名	第 1 回「(仮称) 第 2 次宇都宮市観光振興プラン」策定懇談会
会議主催課名	宇都宮市経済部観光交流課
日時・場所	平成 2 9 年 9 月 2 9 日 (金) 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 宇都宮市役所 1 4 C 会議室
出席者	別紙参照
会議の要旨	<p>「(仮称) 第 2 次宇都宮市観光振興プラン」策定について意見を聞くもの</p> <p>【議題】</p> <p>① 「(仮称) 第 2 次宇都宮市観光振興プラン」の策定について</p> <p>② 「(仮称) 第 2 次宇都宮市観光振興プラン」策定に向けた課題の整理について</p>
会議で議論・課題等となった事項	<p>(大谷資料館 鈴木委員)</p> <p>・フィルムコミッション事業にもっと取り組むべきである。映画「シン・ゴジラ」など、今まで撮影した映画に関しても、市として全く P R がなかった。</p> <p>・大谷資料館の入館者数は、東日本大震災後の 8 万人から、現在は 3 4 万人まで増加したが、その理由としては館内をロケ地等で使用し、映像で発信したことで、それを見た人々に実際に足を運んでいただき、また、それらを S N S で発信してくれている。ロケ地の発信力は大きい。</p> <p>(協同組合宇都宮餃子会 鈴木委員)</p> <p>・東日本大震災後、減少した観光客を呼び込むために情報番組やバラエティ番組など、メディアへの P R に力を入れてきた。現在、宇都宮をロケ地とした映画を製作しているが、周遊性・回遊性を高めるために、今後は映画の聖地巡礼ツアーを実施したい。また、市には映画を起爆剤として誘客に繋げて行く取組を考えてもらいたい。</p> <p>・外国人観光客も含め「来らっせ」には多くの観光客が来ており、W i - F i などの整備も行っているが、大谷を知らない方に対して案内する場所がほしいと考えており、中心市街地に「大谷ミュージアム」を造ってはどうか。更に言えば、餃子の資料館も造りたい。</p> <p>・市の活性化のためにはジャズ・カクテル等の夜型コンテンツを使って宿泊を促進すべきである。</p>

(公募委員 リャオ・レイ委員)

- ・日光に行く外国人観光客の宇都宮での目的は餃子を食べることであるが、餃子博物館のような取組を行うことで、日帰り客を宿泊客に変えなくてはならない。
- ・多言語対応に関しては、県内では進んでいる方かもしれないが、全国的なレベルと比較すると低い。

(帝京大学 五艘委員)

- ・日光に行く外国人観光客をターゲットにしてみてもいいか。
- ・外国人観光客に、宇都宮市のイメージを聞くと「サルのいる居酒屋がある」と言われ、餃子・ジャズ・カクテル等が挙がってこないということは、まだまだ情報発信が足りていないのではないか。
- ・プロモーションとして、市民の方に写真を投稿してもらい Instagram を使用したPR展開をしていくのはどうか。
- ・中心市街地にある餃子店と大谷の間を自転車で周遊するなどの考え方もあるのかもしれない。

(サイクルスポーツマネジメント 柿沼委員)

- ・ジャパンカップには13万5千人が来場しており、開催日以外の日にもサイクリストを含み観光客が多く来ているが、自転車環境の整備が十分でない。
- ・サイクリングターミナルにも自転車に興味を持った人がたくさん来ているが、サイクリングコースは整備されておらず、枯れ葉やコケがあり、とても受入態勢が整っているとは言えない。
- ・365日いつ来ても聖地と呼べる環境づくりが大切ではないだろうか。森林公園は指定管理者がいるため、自転車への配慮がなされているが、坂道が多いため、サイクリング初心者には姿川周辺の環境がいい。川を横目に、大谷資料館、ろまんちっくに向かっていく経路の整備を強化して欲しい。

(うつのみやシティガイド協会 藤本委員)

・宇都宮に観光バス・乗用車で来訪した人は市内を周遊することができるが、鉄道を使ってきた人が利用する二次交通はバスが主要で、行きはバスで行けても帰りのバスがないなど不便を感じることも多くあるはず。

・市内には循環する公共交通がないので、循環するバスがあったら良い。
・最近駅の観光案内所のクレームも多いと聞いている。観光客に見学場所を聞かれると、観光情報誌「るるぶ」等のパンフレットを手渡し、記載されていること告げるだけで親切でない。観光案内所の職員だけでなく、市民も観光案内の際は一言添えて名所を紹介できると良い。

(関東自動車株式会社 福島委員)

・多くの観光客の方々には、企画乗車券を利用いただいております、大谷や餃子といった宇都宮市の紹介もできている。

・東日本大震災前は減便していた大谷地区へのバスも、現在では、朝夕は通勤通学利用者に加え、昼間は観光客で賑わっており、安定したバス路線に変化した。

・観光に特化した路線の新設は維持していくことが課題であり、ドライバーが不足している中で行政からの支援がないと運営が厳しい状況にある。日常生活以外に運行するバスは課題が大きい。

(宇都宮タクシー事業者組合 濱田委員)

・一次交通で来た観光客の多くは、二次交通にタクシーを利用するが、一律金額の設定は難しい。

・大谷と駅を結ぶような定額運行はニーズがあるが、法の規制でできない。最近では若山農園が乗客からの指名が多い。

・現在、ドライバーの資質向上のために「おもてなし講習会」を開催している。タクシーの利便性が良くても乗務員の接客が悪いと台無しになるので、おもてなしには留意している。

(東日本旅客鉄道株式会社 酒井委員)

- ・JRでも二次交通が充実していれば街の紹介がしやすい。
- ・ジャパン・レール・パスで宇都宮駅を利用するのに、宇都宮市が通過されているのは非常に勿体ないので、日光向けの広報物に宇都宮情報を入れるなども効果的である。外国人観光客に人気のある大谷資料館・餃子・益子も組み合わせてみるのもよいのではないか。
- ・インバウンド向けの駅からハイキングの実施もよいのではないか。そのためにはインバウンド向けの観光案内を行う人材育成など受入態勢の充実が必要。

(東武鉄道株式会社 金子委員)

- ・観光PRの拠点として各駅へのポスターやチラシの配布は可能であるが、首都圏の駅では「宇都宮」の名前をなかなか見ることがないので、もっと売り込む必要があるのではないか。
- ・年に何度か、各駅でのキャラバンを実施しパンフレット配布しているが、各自治体によって非常に温度差がある。日光市や栃木市は頑張っているように見えるが、宇都宮市はまだ足りないように感じる。
- ・職員の教育として、年に2回、車いす利用や声掛けサポートの研修を実施しており、これからは、インバウンド向けの内容に広げていっても良い。最近は職員が「お客さん」「お客」ではなく、「お客様」と声掛けできているように感じる。更なるおもてなしを図っていきたい。

(宇都宮旅館ホテル協同組合 福田委員)

- ・資料（民間事業者による満足度調査）における、宿泊のスコアが非常に低いことが気になる。
- ・最近では、市としても力を入れてPRしている結果なのか、台湾からの観光客が年々増えている。
- ・次期プランでは、LRTの活用にも触れた方がよいのではないか。
- ・MICEはターゲットを明確にして誘致する必要があるが、現在、国際会議に対応できるホールが無いのが問題である。

(古池会長)

・駅前にコンベンションセンターを作りたい。また、ビジネスマンに夜の宇都宮を楽しんでもらえればリピーターでまた来てくれると考える。

(株式会社新朝プレス 浅井委員)

・宇都宮市観光動態調査では「また来たい」という観光客が増えているが、今後は紙媒体のツールだけでは勝負できない。市としてのプロモーションの切り口を変えて、どのような発信方法でPRしていくかが課題である。紙面の他にも、SNSのツール利用者が自分事として情報を知るきっかけとなる仕掛けが必要ではないか。

(株式会社ファーマーズフォレスト 石崎委員)

・デスティネーションキャンペーンでの取り組みとして、新規で自転車ツアーを検討しているが、ガイド不足の中でツアーガイドを養成する必要がある。ガイドが増えれば必然的にツアーの実施回数が増え、多くの観光客を受入れることができ、インバウンドにも対応することで、客層の幅を広げることができる。

・外国人観光客が安心して宇都宮に寄れるコンテンツ作りが必要であるとともに、受入れ態勢も強化する必要がある。

(宇都宮商工会議所 福田委員)

・宿泊客に宇都宮の夜のコンテンツを楽しんでもらうことの重要性を感じる。

・私たちが観光客と観光地を結ぶ窓口となって、宇都宮を味わう機会を作ってあげることが必要ではないか。

(株式会社あしぎん総合研究所 相馬委員)

・あしかがフラワーパークで藤の時期とイルミネーションの時期にアンケート調査を実施したところ、台湾・ベトナム・タイ・中国からの観光客が非常に伸びているが、その後の行先はほぼ東京都であった。宇都宮市どころか県内にも行かないのが現状のため、交通のハブとしての機能や市内にある多くのコンテンツを組み合わせ、いかに観光客を呼び込

むかが重要である。

・東武鉄道が日光市で「トリップアドバイザー」と連携し、SNSによる発信を行ったが、このような媒体も使ってみてはどうか。

(株式会社JTB関東 曾根代理委員)

・観光で重要なのは、やはり「おもてなし」である。観光地でのおもてなしはもちろんのこと、観光地に行く前の窓口となる旅行会社も大切である。

「(仮称) 第2次宇都宮市観光振興プラン」策定懇談会 委員名簿

区分	役職名等	役職	氏名	出欠
学識 経験者	宇都宮共和大学 シティライフ学部	教授	古池 弘隆	出席
	帝京大学 経済学部地域経済学科	講師	五艘 みどり	出席
	株式会社あしぎん総合研究所	企画部長	相馬 祥朗	出席
観光関係 事業者	株式会社JTB関東 法人営業宇都宮支店	支店長	三野輪 明人	出席
	東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社	観光開発 課長	酒井 かおる	出席
	東武鉄道株式会社 北関東営業支社	東武宇都宮 駅長	金子 豊	出席
	関東自動車株式会社 路線バス部	部長	福島 崇文	出席
	宇都宮タクシー事業者協議会	会長	濱田 隆也	出席
	宇都宮ホテル旅館協同組合	常任理事	福田 治久	出席
	株式会社ファーマーズ・フォレスト	着地型観光 コーディネーター	石崎 美映子	出席
	大谷資料館	館長	鈴木 洋夫	出席
関係団体	協同組合宇都宮餃子会	理事兼 事務局長	鈴木 章弘	出席
	宇都宮農業協同組合	営農企画 課長	矢田部 匡広	欠席
	宇都宮観光コンベンション協会	常任理事	檜原 貞亮	出席
	宇都宮商工会議所 女性部	会長	福田 泰子	出席
	一般社団法人うつのみやシティガイド協会	代表理事	藤本 由利子	出席
	サイクルスポーツマネジメント株式会社	代表取締役 社長	柿沼 章	出席
	株式会社新朝プレス	編集チーム	浅井 宏美	出席
公募委員	公募委員		鹿野 桃佳	欠席
	公募委員		廖 瑞宜	出席